第４学年　社会科学習指導案

**１　小単元名**「**福祉や教育の発展に尽くした渋沢栄一」（８時間）**

**２　小単元の目標**

福祉や教育の発展に尽くした渋沢栄一の働きについて、当時の世の中の課題に着目して、写真や当時の文献、北区の副読本などの資料で調べたことを文章にまとめ、渋沢栄一の働きを考え、表現することを通して、渋沢栄一は、様々な努力や工夫、人々との協力により当時の生活の向上や東京都の発展に貢献したことを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。

**３　小単元の評価規準**

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| **知識・技能** | **思考・判断・表現** | **主体的に学習に取り組む態度** |
| ①当時の世の中の課題について、写真や当時の文献、北区の副読本などの資料で調べて必要な情報を集め、読み取り、渋沢栄一の働きを理解している。  ②調べたことを文章などにまとめ、渋沢栄一は様々な苦心や努力により、当時の生活の向上に貢献したことを理解している。 | ①渋沢栄一と養育院との関わりに着目して問いを見出し、渋沢栄一の働きについて考え、表現している。  ②渋沢栄一の業績と当時の生活の向上などを関連付け、渋沢栄一の働きについて考えたことを表現している。 | ①福祉や教育の発展に尽くした渋沢栄一の働きについて、予想を基に学習計画を立て、問題解決の見通しをもち、主体的に学習問題を追究・解決しようとしている。 |

**４　単元について**

**（１）学習指導要領上の位置付け**

本単元は、学習指導要領に第４学年の内容（４）に基づいて設定する。

（４）県内の伝統や文化，先人の働きについて，学習の問題を追究・解決する活動を通して，次の事項を身に

付けることができるよう指導する。

ア（イ）地域の発展に尽くした先人は，様々な苦心や努力により当時の生活の向上に貢献したことを理解すること。

ア（ウ）見学・調査したり地図などの資料で調べたりして，年表などにまとめること。

イ（イ）当時の世の中の課題や人々の願いなどに着目して、地域の発展に尽くした先人の具体的事例を捉え、先人の働きを考え、表現すること。

（内容の取扱い）アの（イ）については，開発，教育，医療，文化，産業などの地域の発展に尽くした先人の中

から選択して取り上げること。

**（２）教材について**

本小単元では、明治期において様々な事業を立ち上げ、日本の近代化を進めた渋沢栄一を取り上げる。北区に王子製紙の工場を設立したり、晩年には飛鳥山に居を構えたりして、北区の発展にも大いに関わっている。しかし、渋沢栄一が銀行などの事業を立ち上げたことを、４年生の児童が調べ、理解することが難しいと考えた。そこで渋沢栄一が関わった「養育院事業」を焦点化して教材開発をして、「養育院事業」の発展を通し、東京都の福祉や教育の発展に繋がったことを理解する。

都小社研の教材開発の視点を参考にすると、児童にとっては、「新一万円札」の顔となる渋沢栄一の業績を調べたいと意欲をもつことができ「社会とのつながりを意識できる教材」になると考える。また、令和３年に策定された『「未来の東京」戦略』のテーマは「渋沢・後藤の精神を受け継ぎ、新たな地平を切り拓く」である。渋沢栄一の業績が現代の東京都の政策に繋がっていることを調べることで、「都民として誇りがもてる教材」になると考える。

研究主題の実現につながる教材の価値として、渋沢栄一の苦心や努力を学習することで、様々な人々と共に生きる社会を描き、その一員として生き方を考えることできる。

**５　単元構想**

|  |
| --- |
| **【本小単元につながる児童の学習経験】**  第４学年「受け継がれるくらやみ祭」では、歴史的背景や現在に至るまでの経過など時間的に着目し、年中行事が様々な願いの基に受け継がれていることを学習した。第４学年「ごみのゆくえ」「水はどこから」では、関係機関の事業と人々の生活を関連付けて考え、様々な人々の営みによって、よりよい生活を送ることができることを学習した。時間的な見方や関連付ける考え方を生かし、本小単元の学習をすすめたい。 |

|  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| **【研究内容１】**  **主体的に問いを追究する工夫** | |  | **子供の主体的な問題解決の側面から** | | | | |
| **過程** | **想定される「問い」** | **子供に働かせたい**  **見方・考え方** | | |
| **【問題意識をつかむ工夫】**  ・第１時では、「新一万円札」の顔である渋沢栄一が様々な事業を立ち上げた偉大な人物であることを知る。第２時では、様々な事業を立ち上がたにも関わらず、「養育院事業」のみ生涯関わったことを捉え、「どうして養育院事業に生涯関わったのか」という問いから学習問題を設定する。  **【見通しをもつ工夫】**  ・第３時では、年表にある出来事を基に学習問題の予想をしたり、学習計画を立てたりすることで、見通しをもつ。  **【主体的な学びの工夫】**  ・調べる段階では、既習や資料から調べたことを関連付けたり、新たな問いを見いだしたりした後に、友達と話し合うことで、学びを深める。 | |  | **つかむ** | ＜学習問題をつかむ問い＞  ・どうして渋沢栄一が一万円札になったのだろう。  ・どうして渋沢栄一は、養育院に生涯  関わったのだろう。 | **←**  **←** | **相互関係**に着目して  **時間**に  着目して | **→**  **→** |
| 学習  問題 | **渋沢栄一は、どのように** | | | |
| **しらべる** | ＜しらべる問い＞  ・どうして渋沢栄一は養育院を引き受けたのか。 | **←**  **←**  **←** | **相互関係**に着目して  **相互関係**に着目して  **空間**に  着目して | **→**  **→**  **→** |
| ＜しらべる問い＞  ・渋沢栄一は、養育院を続けるために  どのような努力をしたのだろう。  ・どうして渋沢栄一が関わったバザーに多くの人が参加したのだろう。 |
| ＜しらべる問い＞  ・渋沢栄一が続けた養育院は、どのようになっていったのだろう。 |
| **まとめる** | ＜特色や意味を考える問い＞  ・渋沢栄一によって東京の人々はどのように変わったのだろう。 | ← | **渋沢栄一の業績と当時の生活の向上**を関連付け | → |
| ＜特色や意味を考える問い＞  ・渋沢栄一の業績は、今の東京都にどのようにつながっているのか。 | ← | **時間**に  着目して | → |
| **【研究内容３】**  **子供の学びを確かに**  **する評価の工夫** | 指導と評価の一体化を図る（教師が指導に生かす）評価 | | | | | | |
| 小単元の指導計画上に、指導に生かす評価を☆、記録に残す評価を★とそれぞれ分けて記述をした。指導に生かす評価では、その授業内で基準に到達出来ていない児童に対する手立てを具体的に記した。記録に残す評価では、評価を行う場面の焦点化を図った。 | | | | | | |

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| **社会生活の確かな理解の側面から** | |  | **【研究内容２】**  **社会的事象の見方・考え方が**  **働く学習活動の工夫** |
| **見方・考え方を**  **働かせる資料** | **子供が獲得できるようにしたい知識** |
| ・新一万円札（写真）  ・開化進歩日用双六（絵）  ・渋沢栄一と関わった会社や団体（地図）  ・渋沢栄一と会社や団体の関わり（グラフ） | ・渋沢栄一が一万円札になったのは、電気やガス、鉄道など、今のわたしたちの生活を支える様々な会社や団体にたくさん関わったからである。  ・渋沢栄一は「養育院事業」のみ生涯関わっている。 |  | **【時期や時間の経過から見る】**  ・第２時では、「渋沢栄一と会社や団体との関わり」を時間軸によって示し、「どうして渋沢栄一は、養育院に生涯関わったのか」について時間的な視点から問いを見いだす。  ・第３時では、「渋沢栄一と養育院との  関わり」を年表で示し、時間的な視点で、学習計画を立て、追究する。  ・第８時では、「未来の東京」戦略を示すことで、渋沢栄一の業績は現代の東京の発展の基礎になっていることを時間的な視点で捉える。  **【位置や空間的な広がりから見る】**  ・第１時では、「渋沢栄一が関わった会社や団体」を地図で示し、渋沢栄一の業績が日本全体、特に東京都の広がっていることを捉える。  ・第６時では、「養育院の広がり」を地図で示し、渋沢栄一の業績が東京都に広がっていることが捉える。  **【事象や人々の相互関係から見る】**  ・第４・５時では、渋沢栄一の言葉を  資料として示し、渋沢栄一の行動と明治時代の人々の生活の相互関係を捉えることができる。  **【比較・分類・関連・総合して考える】**  ・第７時では、「渋沢栄一によって東京の人々はどのように変わったのだろう。」を問うことで、渋沢栄一の業績と当時の生活の向上などを関連付けることができる。 |
| **養育院に関わっていったのだろうか。** | |
| ・渋沢栄一と養育院の関わり（年表）  ・明治時代の子供の様子（写真）  ・東京府の町人についての調査（グラフ）  ・渋沢栄一の言葉（文章） | ・渋沢栄一は生活に困っている人たちや孤児のためにつくられた養育院の運営が資金不足で運営が難しくなったため、国から頼まれて、運営をすることになった。 |
| ・渋沢栄一と養育院の関わり（年表）  ・養育院に反対する議員と説得する渋沢栄一の話(文章)  ・鹿鳴館でのバザーの様子（絵・文章） | ・渋沢栄一は、養育院をなくした方が良いという人々を「困っている人々を見放せば、社会はよくならない。」と説得して回ったり、バザーを開き、お金を集めたりした。渋沢栄一の努力や工夫や人々の協力によって、養育院を続けることができた。 |
| ・渋沢栄一と養育院の関わり（年表）  ・養育院の施設の広がり（地図）  ・養育院の入所者数  （グラフ） | ・渋沢栄一が続けた養育院は、東京都の各地に  広がり、多くの人々が養育院に入り、生活に困っている人たちや孤児を助けた。 |
| 渋沢栄一の様々な努力や工夫、人々の協力によって養育院は続けられ、養育院は、東京都の各地に広がった。つまり、渋沢栄一によって、東京の多くの生活に困っている人たちが助けられた。 | |
| ・東京都健康長寿医療センター（写真）  ・「未来の東京」戦略  （文章） | ・養育院は、東京都健康長寿医療センターに  なり、渋沢栄一の福祉や教育に対しての業績  は、現代の東京都の発展につながっている。 |
| 子供が学びを振り返り、次の学びにいかす | | | |
| 学習を振り返る場面を各段階で設定し、次時あるいは次の小単元の学習に生かす。第３時では、「予想ができたかどうか、また何を基に予想したか。」を振り返る。第４時では、「資料を読み取ることができたか・友達と学び合うことができたか・本時のまとめが書けたか」とその理由を振り返る。第７時では、「学習問題に対する自分の考えが書くことができたか」とその理由を振り返る。 | | | |

|  |
| --- |
| **【本小単元で目指す子供像】**  〇渋沢栄一の業績や明治時代の課題をよく見て、渋沢栄一の働きが分かる子【知識・技能】  〇渋沢栄一の業績と東京都の人々の生活の向上をつなげて、渋沢栄一の働きを考える子【思考・判断・表現】  〇問いをもち、渋沢栄一の業績を自分とつなげ、よりよい社会づくりに関わっていこうとする子  【主体的に学習に取り組む態度】 |

**６　小単元の指導計画（全８時間 ）**

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 過程 | ねらい  （数字は時数） | 主な学習活動（○）　　問い（♦）  予想される児童の反応（・） | ◎資料　　□教師の手だて  ☆【評価】と➡︎それに対する支援 |
| つかむ | 渋沢栄一が関わった事業について調べ、渋沢栄一が東京都の発展に関わった人物であることを理解する。① | ◆どうして渋沢栄一が一万円札になったのだろう。  ・何かすごいことをしたからではないか。  ・東京都や日本全体に何か関わっているのではないか。  ○双六で遊びながら、渋沢栄一が生きた時代の様子を知る。  ・電気やガス、鉄道など、わたしたちの生活にも関わる様々なものが始まっている。  ○渋沢栄一が関わった事業について調べる。  ・渋沢栄一は日本全体に関わる多くの会社をつくっている。  ・特に東京都に関わる会社が多い。  ・渋沢栄一が関わった会社が今もたくさんあることから、多くの人の生活が豊かになった。  ・渋沢栄一によって生活が良くなったから、感謝  する人が多かったのではないかな。  ・渋沢栄一は東京都の発展に関わった偉大な人物だ。  渋沢栄一が一万円札になったのは、電気やガス、鉄道など、今のわたしたちの生活を支える様々な会社や団体にたくさん関わったからである。 | ◎新一万円札（写真）  □今の社会とのつながりを意識させ、興味をもたせる。  ◎開化進歩日用双六（絵）  □双六遊びをしながら気付くことを問うことで、明治時代に始まったものと今の生活とのつながりがとらえられるようにする。  ◎渋沢栄一が関わった会社や団体  （地図）  □双六と地図を見比べて気付くことを問うことで、双六の絵と渋沢栄一が関わった会社や団体などが同じであることに気付かせる。  □地図資料から、渋沢栄一が関わった会社や団体が東京に多く、現代にも続いていることから、東京都の発展に関わったことをおさえる。  ☆まとめの記述などから、「必要な情報を集め、読み取り、渋沢栄一が多くの企業や団体に関わっていたことを理解しているか」評価をする。【知技①】  ➡**『関心をもてない児童』**には、自分の周りにある渋沢栄一に関係している企業を見つけるように促す。 |
| 渋沢栄一と養育院の関わりに着目して問いを見いだし、学習問題を考える。② | 〇渋沢栄一と会社や団体の関わりを調べる。  ・東京電力やＪＲなど多くの有名な会社や団体と生涯関わっていない。  ・「養育院」のみ50年間も関わっている。  ・「養育院」のみ、生涯関わっている。  ・「養育」という言葉を国語辞典で調べると、「世話をして育てること」と書かれている。  ・どうして養育院に生涯関わったのだろう。  ・養育院とはなんだろう。  ○養育院の概要を知る。  ・養育院で子供たちが勉強している。  ・養育院では病人の人もいる。  ・養育院とは、国（明治政府）が、今から149年前に東京都内につくった施設である。  ・東京都内の生活に困っている人や身寄りのない子供達を助ける施設である。  ・養育院をつくったのは国ならば、渋沢栄一はどのように関わったのかな。  ◆どうして渋沢栄一は、養育院に生涯関わったの  だろう。  〇問いについて話し合い、学習問題を考える。  ・どうして渋沢栄一は養育院に５０年間も関わったのだろう。  ・渋沢栄一は、養育院にどのように関わったのだろう。  ・養育院は渋沢栄一が亡くなったら、同時に無くなったのだろうか。  ・渋沢栄一が養育院でどんなことをしたかが分かれば、生涯関わった理由が分かるのではないか。  学習問題　渋沢栄一は、どのように養育院と関わっていったのだろう。 | ◎渋沢栄一と会社や団体の関わり  （グラフ）  ◎渋沢栄一(写真)  □前時で学習した内容とつながりを持たせた上でグラフ資料を提示し、それぞれの関わった年数の違いに気付かせる。  □グラフの養育院に関わった時間の長さに着目させ、疑問に思うことを出し合い追究意欲を高めさせる。  ◎養育院で学習する子供  （巣鴨分院の児童写真）  ◎板橋本院を訪問する渋沢栄一（写真）  ◎養育院の概要(文章資料)  □資料から疑問に思うことを出し合い追究意欲を高めさせる。  □グラフと資料をつなげて分かることと分からないことを分類整理することで、学習問題へつなげる。  ☆ノートの記述や発言など「渋沢栄一と養育院との関わりに着目して、問いを見いだして表現しているか」を評価する。【思判表①】  ➡︎**『資料の読み取りが難しい児童』**には、年数に着目させて、他の会社と養育院との違いを見つけさせる。 |
| 学習問題についての予想を考え、学習計画を立て、見通しをもつ。③ | ◆学習をどのように計画したらよいだろう。  〇年表を基に、学習問題に対する予想を考える。  ・年表に、養育院がなくなりそうになったのに、自分で続けたり、資金集めを続けたりしたから、何か苦労して、乗り越えるために、工夫したり努力したりしたのではないか  →養育院を渋沢栄一が引き受けた契機第4時  ・渋沢栄一は、養育院を引き受けるきっかけが何かあったのではないか。  →養育院を運営した渋沢栄一の努力（苦心）第5時  ・渋沢栄一は、養育院を運営するために何か努力や工夫をしたのではないか。  →養育院の広がり第6時  ・渋沢栄一が続けた養育院は、他にも広がっていったのではないか。  〇学習の振り返りをする。  ・年表を基に予想することができた。  ・前時で学習したことを生かして予想できた。 | ◎渋沢栄一(写真)  ◎渋沢栄一と養育院の関わり（年表）  □学習計画の順序は年表に基づいて時系列に並べて調べる計画を立てる。  ☆予想の記述や発言などから「渋沢栄一の働きについて、予想を考え、学習計画を立て、 見通しをもっているか」を評価する。【態度①】  ➡︎年表の項目を１つずつ追いながら、このとき渋沢栄一はどんなことをしたと思うかを予想させる。  □振り返りをすることで、次の単元の学習に生かす。 |
| 調べる | 明治時代の人々の課題を調べ、渋沢栄一が養育院に関わった契機について理解する。④ | ◆どうして渋沢栄一は養育院を引き受けたのか。  ○資料を基に、明治時代の人々の課題を調べる。  ・明治の初めころ、生活に困っている人たちが急に増えていた。  ・渋沢栄一も、「貧しい人々が町の中に横たわり、東京はひどいありさまだった」と話している。  ・生活に困っている人(まちにさまよう子供や老人、障がいのある人)たちを助けるために養育院がつくられた。  ○資料をもとに、渋沢栄一と養育院の関わりを調べる。  ・養育院を運営する資金不足のために運営が難しくなった。  ・渋沢栄一は、給料は一切もらわず、お金をもうけることを考えずに養育院の仕事に打ち込んだ。  ・渋沢栄一が運営を任されることになった。  渋沢栄一は生活に困っている人たちや孤児のためにつくられた養育院の運営が資金不足で運営が難しくなったため、国から頼まれて、運営をすることになった。  〇学習を振り返る。  ・本時のまとめを書くことができた。なぜなら、  資料に線を引いて読み取ったからだ。 | ◎渋沢栄一と養育院の関わり（年表）  □年表をもとに学習計画を確認する。  ◎渋沢栄一の書き残した言葉(文章)  ◎東京府の町人（富民と貧民）についての調査（円グラフ）  □富民と貧民の言葉の意味を確認する。  ◎江戸末期の橋の下の子供たち（写真）  □明治時代の人々の課題から養育院が必要となった経緯をとらえる。  ◎政府から渋沢栄一への依頼（文章）  ◎渋沢栄一「人間平等」の考え（文章）  □文章資料の読み取りでは、分かった事実に下線を引いて、事実から考えられることを全体で共有する。  ☆まとめの記述から、「必要な情報を集め、読み取り、多くの人々が貧困だったという明治時代の課題を理解しているか」を評価する。【知技①】  ➡︎**『グラフの読み取りが難しい児童』**には、明治時代の人々はどのぐらいの人が困っていたのか着目するよう助言する。  □学習を振り返り、次時の学習に生かす。 |
| 調べる | 渋沢栄一が養育院を続けるために取り組んだ行動を調べ、渋沢栄一の努力や工夫、渋沢栄一に関わる人々の協力について理解する。⑤（本時） | ◆養育院を続けるためにどのような努力をしたのだろう。  ○資料から、養育院を続けるために議員を説得した渋沢栄一の様子を調べる。  ・養育院をやめさせようという人々が現れた。  ・渋沢栄一は、「困っている人々を見放せば、社会はよくならない。」と説得した。  〇資料から、バザーの様子を調べる。  ・養育院をやめると東京府が決定したが、渋沢栄一は自らお金を出して、養育院を続けた。  ・バザーを通じて1300人の賛同者を募り、6800万円のお金を集めた。  〇調べたことから、渋沢栄一とバザーに参加した人々の関係を考え、話し合う。  ・渋沢栄一は多くの会社や団体を設立していた時に、多くの人たちとつながりがあった。  ・渋沢栄一は養育院を続けるために、多くの人々に協力してもらい、お金を集める方法を工夫した。  渋沢栄一は、養育院をなくした方が良いという人々を「困っている人々を見放せば、社会はよくならない。」と説得して回ったり、バザーを開き、お金を集めたりした。渋沢栄一の努力や工夫や人々の協力によって、養育院を続けることができた。 | ◎渋沢栄一と養育院の関わり（年表）  □年表をもとに学習計画を確認する。  ◎養育院に反対する議員と説得する  渋沢栄一の話(文章)  □文章資料の読み取りでは、分かった事実に下線を引いて、事実から考えられることを全体で共有する。  ◎鹿鳴館でのバザーの様子（絵・文章）  □資料からは、多くの人の協力を得て、とたくさんの運営資金を手に入れることができたことを読み取れるようにする。  □資料から調べたこと新たな問いを  見いだし、友達と話し合うことで  学びを深めさせる。  ☆まとめの記述から、「必要な情報を集め、読み取り、養育院を続けるために渋沢栄一が努力や工夫をしたり、人々が協力したりしたことを理解しているかを理解しているか」を考える。【知技①】  ➡**『まとめが書けない児童』**については、板書に注目させたり、友達の発表を参考にさせたりしてまとめを書かせる。 |
| 養育院の広がりを調べ、渋沢栄一の働きが東京都の人々の生活の向上に貢献したことを考える。⑥ | ◆渋沢栄一が続けた養育院は、どのようになっていったのだろう。  〇資料から、養育院の広がりを考える。  ・巣鴨に、子供だけを世話する学校ができた。  ・井之頭に、看護師になるための学校ができた。  ・養育院が形を変えて、東京の各地に広がった。  〇養育院の広がりから、渋沢栄一の業績と東京都の人々の生活の向上を関連付けて考える。  ・養育院の入所数が増え、多くの困っている人々を助けることができた。  ・渋沢栄一の「困っている人々を助ける」という  考えが東京都に広がっている。  ・養育院を廃止にしないで、渋沢栄一が努力した  からこそ、多くの困っている人々を助けることができた。  渋沢栄一が続けた養育院は、東京都の各地に  広がり、多くの人々が養育院に入り、生活に困っている人たちや孤児を助けた。 | ◎渋沢栄一と養育院の関わり（年表）  □年表をもとに学習計画を確認する。  ◎養育院の施設の広がり（地図）  ◎養育院の入所者数（グラフ）  ☆振り返りの記述や発言から、「渋沢栄一が続けた養育院事業と東京都の人々の生活の向上を関連付けて考えているか」を評価する。【思判表①】  ➡︎**『まとめが書けない児童』**については、板書に注目させたり、友達の発表を参考にさせたりしてまとめを書かせる。 |
| まとめる | 渋沢栄一の業績についての学習問題に対する自分の考えをまとめる。⑦ | ○調べたことを基に、学習問題に対する自分の考えをまとめる。  ◆渋沢栄一によって東京の人々はどのように変わったのだろう。  渋沢栄一の様々な努力や工夫、人々の協力によって養育院は続けられ、養育院は、東京都の各地に広がった。つまり、渋沢栄一によって、東京の多くの生活に困っている人たちが助けられた。  〇学習の振り返りをする。  ・学習問題に対する考えを自分なりに書くことができた。なぜなら、ノートを振り返り、調べたことを | □「渋沢栄一によって東京の人々はどのように変わったのだろう。」をもう一度問うことで、渋沢栄一の業績と当時の生活の向上などを関連付けることができる。  ★学習問題に対する記述などから「調べたことを文章などにまとめ、渋沢栄一は様々な努力や工夫、人々の協力により、当時の生活の向上に貢献したことを理解しているか」を評価する。【知技②】  ➡︎毎時間のまとめから学習問題に対する自分の考えを書くためのキーワードを出させる。 |
|  | 現代の東京都の政策などを調べ、渋沢英栄一の働きが現代の東京都の人々の発展に繋がっていることを考える。⑧ | ◆渋沢栄一の業績は、どのようになっていったのだろう。  ○資料から、養育院のその後を調べる。  ・養育院は、東京都健康長寿医療センター  ・東京都が2030年を目指して作った政策のテーマは、「渋沢・後藤の精神を受け継ぎ、新たな  地平を切り開く」になっている。  ○現代の東京都の政策に渋沢栄一が受け継がれている理由を考える。  ・養育院を続けるために「困っている人を助ける」という考えが今の東京都に必要なのではないか。  ・自分の利益を求めず、社会に暮らす人々のために何ができるか考えが今の東京都に必要なのではないか。  養育院は、東京都健康長寿医療センターに  なり、渋沢栄一の福祉や教育に対しての業績  は、現代の東京都の発展につながっている。 | ◎東京都健康長寿医療センター（写真）  ◎「未来の東京」戦略（文章）  □社会生活とのつながりを意識できるようにする。  ★まとめの記述や発言から、「渋沢栄一の養育院事業と現代の東京都の発展を関連付けて考えているか」を評価する。【思判表②】  ➡︎**『まとめが書けない児童』**については、板書に注目させたり、友達の発表を参考にさせたりしてまとめを書かせる。 |

**７　　本時の学習（５／８時間）**

**４年２組　北区立王子小学校　主任教諭　渡邉　要**

（１）本時のねらい

渋沢栄一が養育院を続けるために取り組んだ行動を調べ、渋沢栄一の努力や工夫、渋沢栄一に関わる人々の協力について理解する。

（２）本時の展開

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | ○主な学習活動　・児童の予想される反応 | ◎資料　　【評価】  □教師の手立て（番号は研究内容） |
| つかむ | ○前時の振り返りをする。  ・養育院は、政府が生活に困っている人たちや孤児のためにつくった施設だ。運営が難しくなり、渋沢栄一に運営を任せることになった。  〇本時の問いを確認する。  **本時の問い：渋沢栄一は養育院を続けるためにどのようなことをしたのだろう。**  〇問いに対する予想を振り返る。  ・閉鎖の意見書に反対したと思う。  ・栄一がお金を出すことになったと思う。お金は足りたのかな。 | ◎渋沢栄一と養育院の関わり（年表） |
| しらべる | ○資料から、反対する人々を説得した渋沢栄一の様子を調べる。  ・養育院をやめさせようという人々が現れ、なくした方が良いという意見書が出された。  ・渋沢栄一は、「困っている人々を見放せば、社会はよくならない。」と説得した。  ・渋沢栄一の努力も虚しく、養育院を閉鎖する決議が通った。その後、自らお金を出して、養育院を続けた。  ・つまり渋沢栄一は、養育院を続けるために、とても苦労している。  〇資料から、バザーを開いてお金を集めた渋沢栄一の様子を調べる。  ・品物を持ち寄り、売り買いして売上金を養育院に寄付した。  ・多くの人々が参加し、一度のバザーで６８００万円集めた。  ・どうしてバザーには12000人もの多くの人々が集まったのか。  〇調べたことから、渋沢栄一とバザーに参加した人々の関係を考え、話し合う。  ・渋沢栄一は多くの会社や団体を設立していた時に、多くの人たちとつながりがあった。  ・養育院を続けたいという渋沢栄一の思いに多くの人々が応えた。  ・つまり、渋沢栄一は養育院を続けるために、多くの人々に協力してもらい、お金を集める方法を工夫した。 | ◎北区副読本「LOVE LIVE LEAD」  養育院に反対する人々を説得する  渋沢栄一の話（文章）  ◎「鹿鳴館貴婦人慈善会図」（浮世絵・  文章）  □資料から調べたこと新たな問いを  見いだし、友達と話し合うことで  学びを深めさせる。（１） |
| まとめる | ○本時のまとめをする。  渋沢栄一は、養育院をなくした方が良いという人々を「困って  いる人々を見放せば、社会はよくならない。」と説得して回ったり、バザーを開き、お金を集めたりした。渋沢栄一の努力や工夫や人々の協力によって、養育院を続けることができた。 | ☆まとめの記述から、「必要な情報を集め、読み取り、養育院を続けるために渋沢栄一が努力や工夫をしたり、人々が協力したりしたことを理解しているかを理解しているか」を評価する。【知技①】  →**『まとめが書けない児童』**には、  板書に注目させてまとめを書かせる。  →よい記述の児童に発表させ、「努力」「工夫」「協力」などの観点がまとめに入っているか確認させる。 |

**＜板書＞**

**渋沢栄一は養育院を続けるために、**

**どのようなことをしたのだろう。**

**課題**

**まとめ**

**協力**

**なぜ、たくさんの**

**人が来たのだろう。**

**渋沢栄一は、養育院に反対する人**

**人を説得したり、バザーを開き、**

**お金集めをしたりした。渋沢栄一**

**の努力や工夫や人々の協力によっ**

**て、養育院を続けることができた。**

**・多くの会社設立で多くの人とつながりがあった。**

**反対の議員**

**反対意見書**

**反対する声**

**・渋沢の思いに賛成した。**

**鹿鳴館貴婦人慈善会図**

**工夫**

**努力**



**養育院の**

**運営は続く**

バザーは3日間開催

出品総数は**3000品**

来場者は**12000人6800万円**集める

**説得して回る**

**養育院の閉鎖が決定する**